

山麓の町にも、ようやく爽やかな新緑の季節がやってきました。雪解けが生み出す期間限定の水辺にはミズバショウの姿も。美術館でも季節を感じる絵をたくさん紹介しています。

展覧会のお知らせ

常設展示

「小川原脩自伝風な展覧会—春・水辺」

昨年度の新収蔵品『孤峰』（1996年）をはじめ、爽やかに倶知安の風土を捉えた作品を紹介。春から初夏へ、季節を映す“水辺”を軸に小川原の画業を辿ります。

会期：4月25日（土）～7月12日（日）

企画展示

「武田志麻版画展～雲海のシンフォニー～」

赤井川村在住の木版画家・武田志麻さんの作品展。木版多色摺りの素朴で温かみのある線と色彩で表現された田園の情景などをお楽しみください。

会期：4月25日（土）～7月12日（日）

*企画展関連イベント

技法体験ワークショップ『武田さんと多色木版のレッスン』

ハガキサイズの木版画作品に挑戦

日時：6月6日（土）、13日（土）※2週連続でご参加ください。

定員：先着10名 参加費：材料費500円

申込：美術館へ電話 ※定員になり次第締切ります

アート・イベントのお知らせ

■ワークショップ『むつ先生と（アートで）あそぼう！』

5月5日（火・祝 こどもの日）

『想像して たのしい絵をかこう！』子供から大人まで楽しめる作品づくりをします。写真の切り抜きからイメージをふくらませて絵を描こう！

時間：9時～15時30分（時間内にいつでも参加可）

講師：宮崎むつさん（画家） 会場：当館ロビー

参加費無料・申込み不要 ♪こどもの日は小中学生入館料無料です

■土曜サロン

5月9日（土）14時～15時 印象派の旅（6）南海の島に楽園を求めて～ゴーガン

5月23日（土）14時～16時30分 ミュージアム・シネマ 都会の目撃者ロートレック『赤い風車』

講師：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム 聴講無料

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/kucchan-huudokan/

開館時間は9時～17時

（入館は16時30分）

5月の休館日 7, 12, 19, 26 日

■木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

木田金次郎 百花繚乱

会期：開催中 7月26日（日）まで

「岩内派」の誕生

会期：開催中 5月24日（日）まで

■荒井記念美術館 ☎ 0135-63-1111

ピカソ版画常設展「線の魔術師」

会期：開催中 7月12日（日）まで

西村計雄常設展「自然に寄り添って」

会期：開催中 8月23日（日）まで

■西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

西村計雄・画業をたどる展覧会

「花～可憐で愛すべきもの～」展

会期：開催中 7月12日（日）まで

おやこで楽しむ展覧会

「ときにはコレクターのように」

会期：開催中 7月12日（日）まで

■有島記念館 ☎ 0135-44-3245

「山下隆博写真展『吹雪の日／風／海』」

「新見亜矢子作品展」

「平成の『生れ出づる悩み』2014」

いずれも会期：開催中 6月7日（日）まで

海と山と田園と -ミュージアムロード情報-

フリーマーケット開催

■日時／5月16日（土）10時～14時

※雨天中止

■場所／倶知安風土館前庭（アプローチ）周辺

■出店／自由参加ですので、当日現地集合です。

皆さまのお越しをお待ちしております。

町長室から

ここ数年厳しい冬が続いていましたが、今年は1月下旬から暖冬で過ごしやすいい日々が続く、例年になく早く春が訪れています。これからカタクリをはじめ、桜、芝桜、春紅葉など新緑を満喫できる季節です。

今冬は、重たい雪で除雪に苦労されたことと思います。羊蹄山ろく消防組合管内調べで、除雪作業中や屋根からの転落が多く、本町では10件の事故が発生し、住家被害も2件ありました。改めて、除雪作業中の注意喚起や住家管理の徹底が必要と感じております。

4月1日に新人職員12名採用するなど大幅な機構改革を行いました。首長のリーダーシップの発揮とスピード感をもった行政運営を目指し、そして町民目線に立った職場環境構築に向けた課の再編や配置換えも行いました。

雪解けが早く、春の農作業も本格化しています。農業機械による作業の際には、安全な作業手順を実践し事故防止に努めてください。今年も天候の順調な推移と相まって、豊穡の年となることを期待しています。

5月の月初めは長い連休があります。自動車での移動も増えることと思いますが、事故などのないよう交通安全を心がけ、楽しい休暇をお過ごしください。

西江栄二

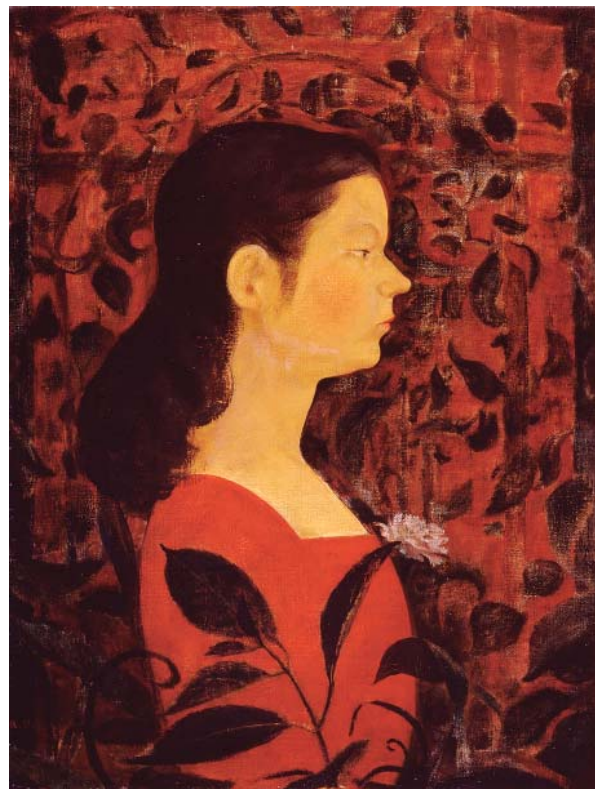
感動一点 の場

『婦人像』

1942年 小川原 脩 画

昨年度のこと、小川原夫人が長年手元に残していた作品が、当館に新たに寄贈されることになった。ご自宅に伺って拝見すると、残存数の少ない1940年代に描かれた貴重な作品が複数あり、当時まだ若かった芸術家の繊細かつ勢いのある筆致に胸を打たれた。

この婦人像は、31歳になる小川原脩がシュルレアリスム絵画の先鋒として東京で絵筆を奮っていた頃に描いた作品で、モデルは後に小川原夫人となるユキ氏である。人形のようになだらかな体つきに対して、紅潮する頬や唇に生命力が宿る。濃い赤の背景に絡みつく暗色の植物の葉に対して、胸に添えられた淡いピンクのカーネーションの花。これらの対比が、相手の女性の内面まで深く理解しようとする画家の熱い視線を反映しているように感じるのは私だけではないだろう。実際に対面すると、図版以上に女性の可憐さが際立つ作品である。ぜひ常設展でご覧いただきたい。



ふる探訪 さと

386回

巨大金魚～産卵期のイトウ～

雪解けが収まり始めるとイトウたちが繁殖のために遡ってくる。尻別川の数多い支流の中で、自然状態で繁殖が行われているのはたった一つの支流に限られている。そこに、まずオスが現れ、次いでメスがやってくる。真っ赤に色づいたオスでも、増水した濁り水の中から見つけ出すのは中々厄介だ。最初オスは支流の広い範囲に散らばっているようだが、次第に産卵が行われる範囲に集中してくる。どうしても場所やメスをめぐるオス同士の争いは避けられない。首から下を朱に染めた1mを越えるサカナが追いかかけあい、時にはかみつきのあう。その様子を観察した札幌の友人は言ったものだ。「倶知安町の巨大金魚のケンカはすごい！」



△雪解けの濁流の中のイトウ。体長約1.1mのオスで、頭部は左側。町内の繁殖河川で撮影

他のオスを追い払い、首尾よくメスを獲得するのはたいてい大きく成長した個体だ。そのようなオスは流れの中ほどで落ち着き、余り動き回らなくなる。実はメスにぴったりと寄り添っているからなのだが、メスが目立たないために我々がその存在に気がつかないのだ。産卵の前、メスは尾びれで川底に穴を掘り始める。イトウのメスはオスよりも大柄のことが多い。掘るために体を横にした瞬間、大きなオスのすぐ横に、突然もっと大きな銀色のメスの姿が閃き現れる。思わず声を呑む。

産卵自体は3～4日で終わるようだ。しかしもてないオスはどこの世界にもいるもので、グズグズと長く居残っている。未練たらしく、なんとなく情けない。オマエのキモチも分らないけど、その態度はちょっと情けねえぞ。密猟者に獲られてしまっても知らねえぞ。そこにはすっかりイトウに感情移入した自分がいる。